

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル会 聖母子像

2018年1月

338号



主のご降誕の喜びの内に

新年のご挨拶を申し上げます

昨年も、一年間、『靈性センターニュース』をご愛読いただき、まことに有難うございました。読者の皆様に心から御礼を申し上げます。

ところで、昨年は、「靈性センターニュース」の事務局が、上野毛修道院から宇治修道院へ移動したため、皆様にはいろいろとご不便をおかけしました。心からお詫び申し上げます。

カラー印刷機も宇治に移動、7月号より新しいボランティアの方々のご協力を得、印刷製本発送を宇治で行なっております。どうか軌道にのりつつありますが、何分にも手不足で、情報処理や会計のことでいろいろ不手際が生じるかもしれません。どうかお赦し願いたいと思います。

さて、2018年は、どのような一年となるのでしょうか。私たちキリスト者が、キリストの福音に真実、生かされ、まことの幸い、まことの平和を、この世界に実現していくことができますように。

カルメルのこの手作りの冊子が、皆様の靈的生活のために少しでもお役に立てれば幸いです。今年も種々の記事と、黙想会や祈りの集い等の企画案内を、みなさまへお届けいたします。

本年が、神のいつくしみに満たされた恵みの一年となりますように。

編集長

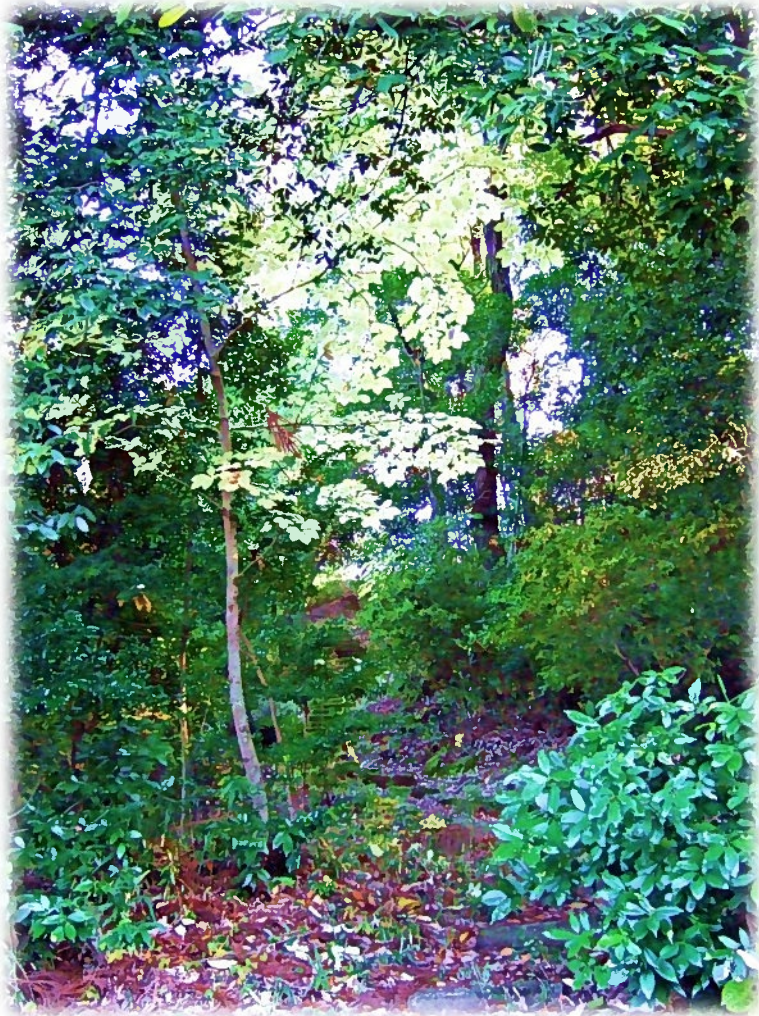
パウロ 九里 彰神父



目次

2018 年度の年頭のご挨拶	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
北陸	25
京都	26
諸所の企画案内	29
郵送お申込みのご案内	40
編集後記	41

心の泉



秋のコシアブラの白葉(宇治修道院 石段)



第三卷

第八章 神のみ前に自分を卑しめる

1 子

《「塵芥にすぎない私ですが、あえて主に申し上げます」(創世記 18・27)。もし私がそれ以上の者だと思ふなら、あなたはすぐ私に反対し、また私の罪自体も明白にそれを訴えて、弁解の余地はなくなります。むしろ私が自らを卑しめ、無であることを認め、自負心を捨て、元来そうであるように自分を塵にしてしまうなら、神の恵みが私を助け、その光が私の心にそそがれ、わずかな自尊心まで、私の無の淵に沈み、永久に消え失せるでしょう。

あなたは、私が何者であるか、何者であったか、どうなるかを示してくださるでしょう。「私は無に等しい者なのに、それに気づかなかったからです」(詩篇 73・22)。もし私が、自分の力の限界内に取り残されるなら、私はさながら無であり、弱いものです。しかし、あなたが私を顧みてくださるなら、すぐ私は力を得て、新しい喜びに満たされます。そうして私は、自分の重みでいつも低いほうへ引かれるのに、これほど早く引き上げられ、これほど優しくあなたにいだかれたことに、驚くでしょう。

2 神の寛大さ

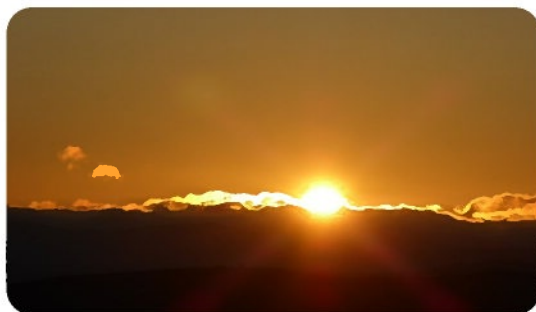
私の功德によらずに私を支え、大きな危険から私を守り、実に数知れない悪から私を救い出してくださるのは、あなたの愛のみ業によるものです。私は不幸にも、自分を愛して道に迷いました、しかしあなただけを求め、清い心をもってあなたを愛することによって、私は、あなたと自分とを同時に見いだし、この愛のために、より深く自分の無を悟りました。

ああ優しいイエスよ、あなたは私の功德より以上に、また私が望み求めうる以上に、恵みを与えてくださいます。

新しい年にあたり主の祝福をお祈り申し上げます。 18年

主がみ顔を向けてあなたを照らし
あなたを守られるように
あなたに恵みを与えられるように
主がみ顔をあなたに向けて
あなたに平安を賜るように

民数記6・24



新年は「神の母」の祝日ではじまります！ 神がマリアを選び、

無原罪のおん宿りの恵みを与えて

神の母とされたことは、

またく無償のたまものです。

神は ただ、ご自分の中からあふれ出る

「自らを与えたいという望み」に

従われたにすぎません。

神から溢れ出るもの、それは愛であり

神のうちにある広がりゆこうとする神の愛の
力を受ける人間には、どのような基準をも設ける
ことはできません。神ご自身が、ご自分の僕の小

ささに身をかめられるのです。*

神の母の祝日にあたって、神から溢れ出る慈しみの愛の深さ、広さをあらためて感謝したい。2018年という年が神の慈しみの愛をさらに深く信じ、信頼し、委ねて生きる日々でありますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

*『わたしは神をみたい いのりの道をゆく』聖母文庫、
聖母の騎士社



創造主への賛美（5）

くのり
九里 彰

アシジの聖フランシスコが「あらゆる被造物を自分の兄弟・姉妹と呼んだ」のとは少し異なるが、十字架の聖ヨハネ（1542～91）は、『霊の賛歌』（40の歌からなる）で次のように歌っている。

無数の美をまき散らしながら
これらの林をいそいで過ぎてゆかれたのです。
そして、通りすがりにごらんになったのです。
彼はみ顔を向けただけで、彼らに美をまとわせ
あとに残してゆかれたのです。（第5の歌）

「無数の美」とは被造物のことで、それらは「神の足跡のようなもの」だと言う。なぜなら、それらはみな、「神の偉大さ、能力、上智、その他の神的完徳の何かしらを反映している」（5,3）のだから。

自然の中で念祈することを好んだ聖人は、美しい自然を眺めながら、神の美しさに思いをはせ、神の現存を感じ取っていたのであろう。この第5の歌全体については、次のように解説している。

神は万物をきわめて容易に、かつ短時間でお造りになり、それらの中に自分がどういうものであるかの、淡い反映をお残しになった。神は被造物をただ無からお引き出しになったばかりでなく、それらを数えきれない美と長所をもってお飾りになり、それら相互の間に驚嘆すべき秩序と不可欠の相互依存とを定めて美化なされた。（5・1）

自然を通して、人は神を知ることができると、使徒パウロも、『ローマの信徒への手紙』の中で言っている。

世界が造られた時から、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。（1・20）



十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (120)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「もっと多くの棒と魔女たち」(2)

起きたことについては何も言わずに、彼は、後生だから、菜園へ入らせてほしいと願いました。菜園で彼は仕事をしなければならなかったのです（畑を耕したり、その他の仕事をまかされていました）。院長は入らせたくなかったのですが、彼が何度も懇願するので、折れて、守衛所を開けました。彼は中に入り、二三步歩くと倒れて、死んだようになりました。守衛所を開け閉めするためにその場にいた修道女たちは、間違いなく彼は死んだと思いました。なぜなら、彼の顔色や症状がこのことを証していましたから。そこで彼女たちは、院長に彼のことを知らせ、院長も納得しました。院長は彼女たちが彼に何か食べ物を与えたのかどうかあやしみながら、彼に油を与えるように言いました。彼に終油の秘跡を授けるために油を持ってくる人を探しながら、院長は回転台*のところに着きました。ちょうどその時、旅行中の聖なる十字架のヨハネ修士が到着しました。修道女たちは、彼に起こったことを報告しました。彼は、いつもの穏やかさと愛をもって、「守衛所に行きましょう」と言い、彼の名を呼びました。「さあ、兄弟よ」。彼は少し息をし、やっとのことで、門のところへ行きました。そこで神父は、墓から掘り起こされた死者のような彼を見て同情し、彼の手を取り、罪を告白するように言いました。その青年はその言葉に従いました。神父は、彼の頭に両手を置きながら、赦しを彼に告げました。するとその瞬間、彼はすっかりよくなり、元気を回復しました。そこで、元気になった彼を見た修道女たちをととても驚かせましたが、何よりも彼自身を驚かせました。彼によれば、死んだと思われるほどきわめてひどい苦しみとショックを感じていたのですから。聖なる神父の祈りは、彼を復活させたのです。神父は、異端審問所の委員に、起きたことを報告するよう、彼に教えました。

この青年は、その後、ここに書かれているように、院長に物語りました。私はこのことを昔話のように話しました。気づいていないことがあれば、後で、書面で多くの言葉で弁明できるでしょう**。

アビラでは個人的な事件の場合、聖人はそのことは秘密にしておきました。この事件では、聖人は、侮辱され、痛めつけられ、棒で叩かれた者に、事件を告発するための手段を「教えた」のです。

明らかにそれは別のことだったでしょう。

*禁域と外部の間に設けられ、物をやりとりする所。

**このように、聖霊のマグダレナ姉妹は物語りました。

主の公現の祭日

(マタイ 2:1-12)

主の公現の祭日 (The feast of Epiphany) は、諸国の民に主が現されたことをお祝いします。これはユダヤの王を崇めるために東方から来た三人の博士に象徴されています。epiphany という言葉はギリシャ語で、「示す」とか「顕示」を意味しています。

私たちはその方の星を見ました：心の誠実な人は神を見ます。三人の博士の場合、彼らの誠実さは目的地に到達するために喜んで犠牲を払ったことで分かります。この旅で自分の国での快適さ、家族の必要、富の追求を捨てなければなりません。目的は純粹で、自己中心の思いは混ざっていません。神に会いたいという望み以外、何もありませんでした。占星術からヘロデ王へと、星から飼い葉桶へと、彼らの開かれた心により、この世での様々な事柄を通して神は語りかけられました。今日、私が神を見出すために何があるのでしょうか？ 神以外のものは全て忘れて、神のみ手が神の現存との決定的な出会いへ私を導くままにしなければなりません。

ヘロデのところに戻るな、とのお告げ：ヘロデ王や世俗的な人たちには星は示されず、そこには暗闇があるだけです。世俗的な人たちは神という概念を好み、神について知りたがっているようにさえみえますが、彼らは神の呼びかけを無視します。彼らはめったに自分の宮殿を離れたり、自分の時間を犠牲にしたり、神に奉仕したりしません。安楽を愛する者は宮殿を出ると、世界には神はどこにもいないと主張します。彼らは安楽な世界を失うのを恐れるのです。私は祈ります、私の生活の中で福音が求めている全てのものに私の心が開かれますように。キリストが私の中に何の妨げも見出しませんように、むしろ、私がキリストを見出しキリストに従っていくために、自分の宮殿を出たいと思っている意志をキリストが私の中に見つけてくださいますように。

それから彼らは宝の箱を開けた：愛を与えるためには、愛に強く影響されていなければなりません。他の人の私への要求をどれほど保ち続けていることができるでしょうか？ 行く手に後押しやサポートがほとんどないとき、私の召命と使命にどれほど誠実であり続けることができるでしょうか？ 毎朝無条件に衝撃を与えてくださる神を探する必要があります。ミサのとき、祈りにおいて、あるいは神の摂理の働きにおいて、毎日必要な顕示が私を待っています。宝箱を開けて自身の贈り物を取り出すように私を力づけます。この愛を経験しなければ、私の人生は閉じたままで、私自身を完全に与えるための内的な力は見つけれないでしょう。ヨハネは言っています。「ここに神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。・・・わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」(一ヨハネの手紙4:8, 20)

(Sr. Paulina)

年間第2主日 「見よ、神の子羊を」

「見よ、神の子羊だ」と洗礼者ヨハネは呼びかけています。降誕節をとして神の現れを喜び祝った私たちは、さらにその方を「見よ」と呼びかけられています。主が少年サムエルを繰り返し呼ばれたように（サムエル上 3・3-10）、神の霊は私たちに「見よ、神の子羊だ」と絶えず呼びかけているのです。サムエルのようにその声を聞くことができるでしょうか？心静かにし、答える姿勢を整えることで、聞こえてくるはずですよ。

「二人の弟子がそれを聞いて、イエスに従いました」。彼らがイエスに求めたのは、イエスが「どこに泊まっておられるのか」を知ることでした。文脈では、場所はヨルダン川のベタニアあたりですから、イエスはどこかに野宿でもしていたのでしょうか？あるいは宿があったのでしょうか？しかし、宿泊場所はどこでもいいのです。イエスが泊っておられる場は、父という場です。「わたしは父の愛にとどまっている」とイエスは言っています（ヨハネ 15・10）。「泊まる」も「とどまる」も原語では同じ言葉です。イエスは、宿泊先を尋ねてきた二人に、ご自分の存在の根っこである「父の愛」という場に案内したのです。そこで、父に祈るイエス、父の愛を語るイエスに二人は魅了され、一緒に父に祈ったのではないのでしょうか。また、イエスと食事をし、その心に燃える父の愛に触れたのではないのでしょうか。それが「その日はイエスのもとに泊まった」という一文の内容ではないのでしょうか。その体験があまりにも新鮮で、印象的だったからこそ、「午後四時ごろのことであった」と大切な時間として記憶されているのだと思われます。

彼らはイエスがメシア（油を注がれた者）だと悟りました。神の愛という油を注がれた存在、つまり父の愛の中にいる存在だと悟ったのです。そして、イエスのところに泊まるならば、自分たちまでも父の愛の中にとどまらせてもらえるという体験をしたのです。彼らはイエスの中に求めていたものを発見したのです。イエスは言っています。「わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの愛にとどまっていることになる。これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」（ヨハネ 15・10-11）。

彼らはこのようなあふれる喜びを体験したからこそ黙っていることができず、アンデレはすぐに兄弟シモンにこのことを告げ、彼をイエスのところに連れて行きます。後に同じ体験をしたフィリポも、友人ナタナエルをイエスのところに連れて行きます（ヨハネ 1・43-46）。

イエスに出会った人、イエスの泊まっておられるところ見、そこに泊まった人は、ほかの人にイエスを伝えずにはいられません。その人をイエスのところに連れて行こうとします。「福音宣教」。それはイエスとの出会いの感動から始まります。この出会いの感動へと、神の霊は今日私たちに呼びかけているのです。「霊と力による」福音宣教ができるようにと（1コリント 2・4）。

（今泉健神父）

年間第3主日 (マルコ 1:14-20)

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」とイエスは宣教活動の初めに命じられました。“あなたたちは神の国から遠くない処にいる、” “神の国はあなたたちの内にある。”と最大限の表現を使って教えて下さっています。主イエスがこの世に来られたのは神の国を築くためです。この地上に始まり永遠へと続く神の国、わたしたちは自分自身の内に神の国を築いて行くのです；神の恵みの中で自分の弱さ、悪い傾き、罪、自分中心の思いを反省し悔い改め、主なる神への信仰、希望、愛のうちに生きる努力をします。これはこの世に始まり永遠へと続く神の国をキリストと共に建設していくという奇跡的な恵みの歩みに必要なことです。キリストを自分の全てとして生きる生活です。たとえ自分の弱さに負けることがあっても、すぐに神に立ちかえり、いつも福音を通して語られる神の望みを大切にして生きることです。キリストに似た者となりキリストと共にあってキリストを愛しキリストのために生きる者となることです。

イエスの望まれる悔い改めは内的なもので心の内面で始めなければなりません。ペトロはキリストが真の神であることを知ったとき、イエスの足もとにひれ伏し叫びました「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」(ルカ5:8) イエスの回心と悔い改めへの招きは、キリスト以前の預言者たちが荒布を纏って断食と苦行をした外面的な行為ではなく、心の、内面の回心に向けられています。入信(洗礼)の秘跡によって与えられた神の生命は内的なもので、罪によって衰弱し喪失することもあるからです(カテキズム 1420)。回心と悔い改めの成果は、どれだけキリストのように考え行動出来るようになったか、どれだけキリストに似る者になったかということに表れてきます。イエスに出会った漁師たち(後の使徒たち)は「すぐに網を捨て従った。」(マルコ1:18)のです。

カトリック教会のカテキズム No.1434 は、回心と悔い改めのためのゆるしの秘跡は大罪を犯したときのためだけのものではないと述べています。“キリスト者の内面的な悔い改めは、きわめて多様な形をとります。聖書や教父たちは、自分自身、神、および他人との関わりに関する回心を表す断食、祈り、施しという三つの形について特に力説しています。”他の具体的なもっと明確な手段としては、“隣人と和解する努力、悔い改めの涙、隣人の救いへの配慮、聖人たちの執り成し、多くの罪を覆う隣人愛の実行などを挙げています。”あなたはこれらの勧めを心から受け入れたいと思いますか。最も大事なことは、わたしの主であり神である方との親しい交わり、親密な友情です。この神との親しい関係を大切にして生きるために、回心と悔い改めはいつも必要ですし、ゆるしの秘跡がどんなに重要なものか、心に深く留めたいものです。

(Sr. Paulina)

年間第4主日 (マルコ1:21-28)

今日のみことばは、イエスがガリラヤで宣教を開始され、四人の漁師、後にペトロと呼ばれるシモンとそのシモンの兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネに呼び掛けられて、ご自分の弟子にされた後、ガリラヤ地方の湖、ガリラヤ湖の湖畔の町カファルナウムで行われた出来事が語られています。

イエスはその後、弟子たちとともに移動されたのでしょうか。カファルナウムに着き、安息日に会堂に行き、お入りになられて、人々に教え始められたとあります。これまで人々に語った人は数多くいたことでしょうか。祭司、ファリサイ派の人々、律法学者たち。でもここでイエスが語られた言葉にガリラヤの人々は非常に驚きます。これまで聞いたことのない様な何か、すなわち神からの権威をきつと肌で感じたのでしょうか。

この様に感じたのは人々だけではありませんでした。イエスがおられたこの会堂には汚れた霊に取りつかれた男もいましたが、その男がイエスが誰であるか、どんな存在であるかを叫び出しました。それはこの霊も神からの権威を感じたからなのでしょう。

そしてこれに対してイエスは黙る様に、そしてこの男から出て行く様にと汚れた霊に命じられ、汚れた霊が男から出て行ったと聖書には記されています。人々はその光景を目の当たりにして、イエスの教えには権威があり、それは新しい教えだと語っています。

イエスは人となられた神の独り子。イエスの到来は、言うまでもなく神の到来です。神の権威が人々に示され、神の支配が人々の間へ広がりいく様子が、具体的な印として「汚れた霊・悪霊追放」、「病気の癒やし」という神の御手、神の力なしにはなしえない数多くの出来事がイエスの宣教活動の中で行われていくこととなります。

今日の「みことば」の最後に、イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まったとありますが、評判だけでなく、神の権威、神の支配が広がっていった様に、私たちのうちにも、また私たちの心のうちにも、神の支配が広がってゆきます様に。

(Fr. 古川利雅)

葉を落とし裸木となった梢が指す空を見上げると、高さをなくすほどの高さ、青さに尽くせないほどの青さに、息をのみます。

そこに浮かぶひとかたまりの雲は、もくもくと綿菓子のように白く、刻々とその形を変化させて見あきることがありません。

時に、飛ぶ鳥の黒い影が走り、その先には、生り物の名残の色彩が光を受けて鮮やかです。

何にも侵されることのないこの領域に、私自身もまた一つの役割を与えられ、配置されているように、果てない光景のなかに吸い取られていくのです。

身体の内と外との境界を失うかの、この季節のひとつときです。

先日、読むというよりは眺め入ってしまった新聞のコラムがありました。

そこに紹介されているのは、岩田慶治という文化人類学者のことばで、「鳥の魂は空で、空の身体は鳥だ」とあります。見たとたんに全身を貫くようにまっすぐに迫ってくるものがあり、心を奪われました。

コラムの執筆者であり、このことばの紹介者である哲学者の鷲田清一氏は、「鳥は空を魂とし、のびやかに飛翔する。空は鳥を身体とし、その透きとおる広がりやを自在に描く。そこでは、飛ぶことと身をまかせることが一つとなっている。」と書き添えています。この短い添え書きも、解説というよりは詩のように心に入りました。ことばを、文章を、文字を、読むのではなく眺めること、ちょうど絵画を見るようにして、瞬間、直観で捕えたものは或る成就、或る完結でもあるのですが、それを静かに追い深めながら、ゆったりと思いを起こし考えをめぐらしなどしつつ、味わいました。

日頃は、私たちは普通に一般通念とか社会の常識とかといったもののなかについて、どうしても、何かが窮屈になっているのではないかと思うのですが、実はか弱く繊細な、もっともっと個人的なこと、ほんとうの私のこと、全身全霊でしか捉えられないこと、むしろ筋道の通らないこと、説明解釈を停止するといったこと、そういうことにいっばいに開かれたいと、切に憧れ願っているのではないのでしょうか。

空がなければ鳥はほんとうの鳥、言ってみれば自立した「私」になれないと
言うことができるでしょうか。一方空は、空によってほんとうの鳥になる
のだというその鳥によってこそ、空としてのほんとうの存在を得る。

ほんとうの「私」とはほんとうに自立した在り方であり、だから身を任せる
ことができるし飛ぶことができる。「私」ではないものを、いのちをかけて
信じることができる。

私にはあなたが要る。あなたには私が要る。そうした一体の内に、私
たちみんなという世界が生まれるのではないのでしょうか。相互ということ
でしか成し得ないもの、それが「鳥の魂は空で、空の身体は鳥だ」という私
たちの世界なのではないのでしょうか。

私たちはさまざまな出来事に会い、なすべきこと、望むこと、課せられたこ
となどなどを引き受けて、泣いたり笑ったりして自分のあらゆるすべてをもっ
て、この毎日を生きてゆきます。

私は鳥であったり空であったりします。

未完成の未成熟の小さな鳥であり空であるかもしれませんが、翼を預け、身
を任せるあなたを得て、信じることを愛することを覚えてゆきます。もっとも
っと信じたい愛したいと切望します。あなたを魂として自由にのびやかに飛
びたいのです。そしてまた 飛ぶ鳥を自分の身体として、広がり自在に描
きたいのです。

今日出会う、あらゆるあなたに心開くこと。 今日、声を聞いたら心を閉
ざしてはならない。目覚めていること。私の力によってではなく、すべ
ては満ち満ちる恵みによって……。

再び見上げる空は、あくまでも高くあくまでも青く、白い綿菓子雲は、形
を変えて一筋の長い帯のようになりました。飛ぶ鳥は影を残して視界から消
え去り、ひたむきに天を指す裸の梢が、冬の陽を浴びてそこにあります。

(上野毛教会 信徒)

いのちの言葉 1月

主よ、あなたの右の手は力によって輝く

(出エジプト 15・6)

今月のみ言葉は、旧約聖書のモーゼの歌の一節で、イスラエルの民の歴史に介入される神を讃えています。

エジプトでの長い奴隷の苦役から民を解放し、救い出し、約束の地に導かれた神の偉大な力を讃えています。

約束の地への道のりは困難と苦しみにみちたものでした。しかし、神の救いのご計画に従うモーゼとヨシュアを通して、神は、着実に民を約束の地に導かれました。

主よ、あなたの右の手は力によって輝く

「力」というとき、ともすると私たちは、人間同士、あるいは民族間の争いの原因ともなる権力による力の行使をイメージします。しかし神のみ言葉は、イエスのうちに具現されている「愛」にこそ、本物の力があると分かせてくれます。

イエスは一人の人間としてその生涯、死に至るまでのすべてを体験されました。それは私たちを解放への道、御父との出会いの道に導くためでした。イエスの生涯のおかげで、私たちすべての人間に対する神の力強い愛が示されたのです。

主よ、あなたの右の手は力によって輝く

自分を見つめるなら、誰もが自分の限界を感じずにはいられないでしょう。肉体的・精神的にも、心理的・社会的にも私たちは皆弱い人間です。その人間的な弱さは否定出来ない現実です。

しかし逆に、弱さや限界をもっている私たちだからこそ、神の愛を体験できると言えるでしょう。

神は、その子供であるすべての人間の幸せを願っておられます。共通善や平和のため、また兄弟愛のために、私たちが柔和な心で神のみ手にすべてを委ね、周りの人々に尽くすとき、神は力強い助けの手を差し伸べて下さるのです。

今月のみ言葉は、毎年一月に催される一致祈祷週間を念頭に選ばれました。幾世紀にもわたりキリスト者同士が傷つけあい、家族や共同体にどれほど分裂や不信感をもたらし、互いの間の溝を深めてきたことでしょうか。

主よ、あなたの右の手は力によって輝く

私たちは、神の賜物である一致の恵みを切に願い求めなければならないでしょ

う。と同時に私たち自身が神の愛の道具として、お互いの間に橋を架けるために自らを捧げる覚悟がいるでしょう。

2002年、キアラ・ルービックは、ジュネーブにある世界教会エキュメニカル協議会本部に招かれた際、次のように語っています。

「目の前にいる人が誰であっても、その人と同じ目線に立つことから対話は始まります。自分の思いを無にして耳を傾け、相手を自分の内に迎えることで初めて、相手を理解できるようになります。

愛をもって聴いてもらった人は、今度はこちらの考えを聞かせてほしいと望むようになり、そこから真の対話が生まれてくるでしょう」¹と。

今月は、日々のお出合いのなかで特に、諸キリスト教会に属するご家族やグループの方々との友情と、信頼関係をいっそう深めていきたいものです。

さらにまた、教会内部のわだかまり、家庭の中の争い、そして政治や社会の中にある分裂などが少しでも改善されていくように祈り、またそのために行動の輪を広げていけたらと思います。

こうして、私たちも喜びのうちに「あなたの右の手は力によって輝く」と証しすることができますように。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★いのちの言葉の集いと新年会

関東 新年会 1月13日(土) 11:00~15:00 カトリック吉祥寺教会
信徒会館中ホール(軽食準備のため、なるべく事前に 03-3330-5619 までご
連絡を。16:00 から主日ミサあり)

1月14日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 新年会 1月14日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス
ゆうや

長崎 1月28日(日)・2月25日(日) 11:00~ 浦上教会 要理教室

★一日 マリアポリ(藤沢)

3月11日(日) 11:00~16:00 カトリック藤沢教会センターホール

★キアラルービック帰天10周年記念ミサ

とき: 2018年3月17日(土) 15時~ 場所: 四谷 イグナチオ教会主聖堂

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

¹ キアラ・ルービック、交わりの霊性の基となる「一致と十字架につけられ見捨てられたイエス」2002年10月28日、ジュネーブにて



糸巻き棒からペンへ(27)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

このことは、変わった形で、晩年の手紙の中に見ることができます。「それが私たち修道女が恐れていることです。姉妹たちをうんざりさせ、責任をたくさん負わせるうっとうしい長上がやってくることです」(手紙 145,1)。「永遠に修道女担当の管区長代理は聴罪司祭であるべきでないとは私は強調します。…また修道女たちは男子の修道院長たちに従うべきではないことも必要です。私たちの会憲は、男子の管区会議で、たとえ彼らがそれを理解するとしても、取り扱われるべきではありません」(手紙 359,1 以下)。「私たちの事柄に、男子を仲間に加える必要はありません」(手紙 360,4)。

キリスト教的と言われた社会において、聖書に近づくことが一般的に無学な人々、特に女性に対し禁止されていたということは馬鹿げていると、今日の私たちにははっきりしています。けれども、そうだったのです。テレジアは、彼女の「雅歌の解説」が燃やされるのを阻止できない状況に対し、声を上げたのです。とても慎重に、しかし断固たる調子で、彼女は聖書の読書を危険とする人々を、触れるものすべてを毒に変えてしまう有害な動物にたとえています。「私は、ある人々が、それ(『雅歌』が述べている事柄)に耳を傾けることを避けていると聞きました。おお、神よ、私たちの惨めさは何とひどいのでしょうか。まるで自分が食べる物をみな毒に変えてしまう毒蛇のようではありませんか。主が、大きなお恵みを下して主を愛する霊魂の中で行われることを悟らせ、主と語り、共に楽しむようと励ましてくださるにもかかわらず、私たちは恐れを引き出してしまうのですから」(『神愛考』1,3)。

彼女に関する限り、翻訳されたものでしたが、聖書のわずかなテキスト、特に福音書を読むことに、変わらぬ愛情を抱いていました。「私はいつも聖書に熱中していましたし、とてもよく書かれた書物以上に、あの至聖なる方の口から出た福音書の言葉の方が私を捕えて放しませんでした」(『完徳の道』エスコリアル版 35,4)。また彼女は、キリスト者として生きるために、そして神秘的充満へと至るために知っておかねばならないことが、すべて聖書の中に見出されると確信していました。それゆえ、彼女は自分の考えを説明するために、聖書のイメージを沢山使用しています。ただ自分が聖書をよく知らないことを嘆いています。「ああイエズス、念祷のこれらの事柄を理解させてくれるに違いない聖書のたくさんの箇所を分かることができましたなら」(『霊魂の城』第7の住居 3・13)。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

≪ Communications (時事通信) ≫

2017年12月5日

“平和の構築：キリスト教とイスラム教への挑戦” イスラム教徒とキリスト者の出会い

アビラの神秘神学大学で2017年11月17日から19日まで、イスラム教徒とキリスト者の会議が“平和の構築”というテーマで、ビブロスのイスラム法典学者シェイク・ガッサン・ラックス師とアビラ司教区とブランケルナ研究所の共催で開催されました。

開会式は11月17日金曜日の午後5時半に行われました。続いて、ムフティ・ガッサン・ラックス師とアビラ教区のガルシア・ブリジョ司教が、社会を構築する上での宗教の重要性について話をしました。両者は、それぞれの宗教の貢献について聴衆に紹介しました。翌日からは、平和の探求というテーマが、両宗教間の対話の観点から展開されました。討議の要点は、1. コーランと福音における神のみ顔、2. 聖書における“隣人”、3. 連帯と社会奉仕、4. 内的な平和と社会平和の構築、でした。各テーマは、イスラム教徒とキリスト者の二人の講師により、絶えずそれぞれの宗教的観点から深められていきました。

会議の終わりに、発表者たちは、文化的宗教的多様性の中で見出される富の中で、各自の信仰を新たにするための一連の提案を行ないました。すなわち、宗教の自由や、すべての人々の平等と相互尊重と正義の原則に基づき対話を続けていく重要性や、このような会議を将来も継続していく必要性などです。会議参加者たちは、ビブロス市を宗教間対話の国際センターとして宣言することを提案しました。



カルメル誌 新刊案内



2017年 秋号 No.366

《今年の特集 三位一体のエリザベトの霊性》
 三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(3)
 九里彰
 三位一体のエリザベトに影響を与えた霊性家(3)
 —ルイスブルック
 松田浩一
 エディット・シュタインと三位一体のエリザベト
 須沢かおり
 風に吹かれて(13)—虚無—
 原 造
 フランス便り(3)夕日を浴びる葡萄畑
 —“聖なる”ものになるように あなたも嚼まれています
 伊従信子
 遠藤周作の文学とテレーズの霊性(2)
 —『最後の殉教者』と『カルメル会修道女の対話』
 片山はるひ
 道元の霊性に学ぶ(3)—心の無限の可能性
 田畑邦治
 今はむかしのテレビ事情
 森 みさ
 神がいつくまれた道(15)
 奥村一朗



特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
 —現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで
 片山はるひ
 続・歴史の中の三位一体のエリザベト
 大瀬高司
 三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
 九里彰
 三位一体のエリザベトによる
 「聖書に基づくキリスト中心の生活」
 ポーリン・フェルナンデス
 父と子と聖霊の唯一の神を信じる
 —三位一体のエリザベトと共に
 松田浩一

ご案内

1冊 460円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600円【460円 (+送料 140円)】程度の献金を
 下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
 +特集号 計 3,000円)を下記へお振込み下さい

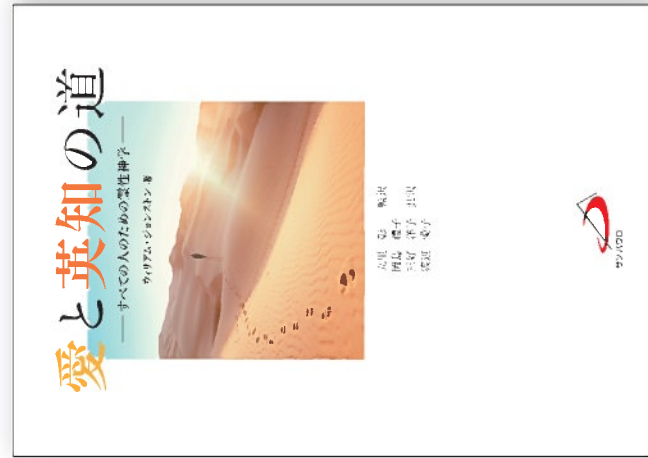
郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



10月18日(水)発売予定

サンパウロ 新刊案内



愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生の道の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」(『教会憲章』39)。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちに、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一にし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 背景(Ⅰ)
- 第2章 背景(Ⅱ)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対証

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギ
- 第10章 英知と心志

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちに〉ある
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学、神学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルバ、トマス・マートン、グライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1 C0016



最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

新刊紹介



中川博道 神父の
待望の新刊が出来ました！！

存在の根を探して

6月23日発売

●イエスとともに

天地創造、カインとアベルの物語など、聖書に記された人間の姿、そして十戒の現代的意義や主の祈り、イエスの生き方をていねいに見ていくことを通して、心の奥底での神との生きた出会いへと読者をいざなう。カルメル会での40年にわたる観想生活から生まれた本書は、カルメルの靈性に触れ、味わう入門書として最適です。

主な内容

- ・ 生きることの原点
- ・ 「聴く」という生き方の意味
- ・ 私とは誰？——自らの存在に聴き入る
- ・ 現代という荒れ野を歩む道
- ・ 生きるイエスを捜し続ける教会
- ・ 「心の深い深い、いちばんの奥底」へ



B6判・1700円+税 ISBN978-4-87232-090-9

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

全国のキリスト教書店、Book Web、オリエンス宗教研究所HPもご利用ください。

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛霊性センター(東京) 2018年3月まで

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

1/11(木) 1/26(金) 2/8(木) 2/23(金) 3/8(木) 3/23(金)

(以降は、決まりましたらご案内します。)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会

12月27日(水) 17時～2018年1月5日(金) 朝 福田正範神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2月10日(土) 16時～12日(月) 16時 カルメル会士

交通案内

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩 約8分 (注:上野毛には急行は停車しません)
各線から、東急大井町線への乗換は次の通りです。

東急:東横線 自由が丘、田園都市線 二子玉川。

JR:京浜東北線 大井町、JR南武線 武蔵溝ノ口。

東急バス 上野毛駅前下車 徒歩 約8分

①黒02 二子玉川～目黒駅前。(経由:目黒通り。途中、碑文谷、都立大学。)

②園01 千歳船橋～田園調布。(経由:環状8号。途中、瀬田、砧公園など。)

田園調布方面からは、1つ手前「明神坂上」のバス停も降車可能です。

- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

- 1月13日(土)～14日(日) 日常生活を次の世代のため 中川博道神父
5月26日(土)～27日(日) 「私の愛にとどまりなさい」(ヨハネ15・9) 九里彰神父
7月14日(土)～15日(日) 「真の霊性を探す教会」 中川博道神父
9月8日(土)～9日(日) 「人は新たに生まれなければ、
神の国を見ることはできない」(ヨハネ3・3) 九里彰神父
11月23日(金)～25日(日) 「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

- 2月3日(土) 中川博道神父 7月7日(土) 九里彰神父
4月21日(土) 九里彰神父 9月1日(土) 中川博道神父
5月12日(土) 中川博道神父 11月17日(土) 中川博道神父

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

- 1月24日(水) イエス・キリストと聖パウロ 九里彰神父
2月14日(水) 四旬節の課題 中川博道神父
3月14日(水) 自分の十字架を背負って Sr.ロサ ←修正
4月11日(水) エマオに現れた復活したイエス Sr.マイラ
5月23日(水) 「神の母を祝う」 中川博道神父
6月20日(水) 「まことの食べ物、まことの飲み物」 九里彰神父
7月25日(水) 「預言者エリアとカルメル」 中川博道神父
9月26日(水) 私を生まれ変わらせるユウカリスティア Sr.ロサ
10月24日(水) 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父
11月21日(水) 「永遠の命」 九里彰神父
12月19日(水) 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【四旬節の黙想】(午後5時～午後4時)

- 3月3日(土)～4日(日) 過越しを生き抜くために 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】(午後5時～午前9時)

- 4月29日(日)～5月4日(金) 「日常の中に隠された宝」 中川博道神父

【聖テレーズの黙想】(午後5時～午後4時)

- 9月29日(土)～30日(日) 中川博道神父

【カルメル青年の集い】(午前10時～午後4時)

- 2月12日(月) 6月9日(土)
4月14日(土) 11月23日(金)

【青年の黙想会】 (午後5時～午後4時)

9月15日(土)～16日(日) 中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】 (午後5時～午後4時)

10月13日(土)～14日(日) イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日(土)～9日(日) 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】 (金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時)

1月26日～27日

7月20日～21日

2月23日～24日

9月14日～15日

3月16日～17日

11月2日～3日

5月18日～19日

九里彰神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～2日(日) 「人となられた神」 九里彰神父

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

5月28日(月)～6月6日(水) 中川博道神父

8月5日(日)～14日(火) 九里彰神父

8月16日(木)～25日(土) 中川博道神父

11月6日(火)～15日(木) 九里彰神父

12月27日(木)～1月5日(土) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30(講話なし、各食事つき)

【聖週間を祈る】 聖木曜日から復活祭まで、どの曜日からでも参加可能です。

3月29日(木)～4月1日(日)

【クリスマス】

12月24日(日)～12月25日(月)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは、電話でも受付ておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひ致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願ひいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエツ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市中熱田区大宝 4-5-17
Tel : 052-671-1558 Fax: 052-681-6445

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎18年度の内観は、月曜(午後2時)から土曜(昼食後)までの5泊6日です。

参加研究費は、関西5万円、関東5万5千円となります。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

5泊6日 月曜午後2時より 土曜昼食後まで

2018年予定

- T1 1/22 (月) - 1/27 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K1 3/05 (月) - 3/10 (土) 東京小金井・聖霊会
- T2 4/16 (月) - 4/21 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N1 5/07 (月) - 5/12 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 6/11 (月) - 6/16 (土) 東京小金井・聖霊会
- T3 7/02 (月) - 7/07 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- K3 9/03 (月) - 9/08 (土) 東京小金井・聖霊会
- T4 9/24 (月) - 9/29 (土) 兵庫西宮・トラピスチヌ
- N2 10/08 (月) - 10/13 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K4 11/05 (月) - 11/10 (土) 東京小金井・聖霊会



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い



2018年 1月20日（土）
（2月以降はしばらくお休みとなります）

午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門C	2018年1/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740
サダナI	2/9(金) 17:30- 12(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
フォローアップ	2/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナII	3/17(土)4)17:30- 21(木)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
入門A	4/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	駒場ザビエルハウス	同上
那須リピーターの会	4/28(金)17:30- 30(日)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフの家 (栃木県那須郡那須町 大字豊原)	同上

※不在の場合は、渡辺由子

Tel& Fax : 042-325-7554



◆サダナI (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナII

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナIを終えた方。

◆入門C・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧師(東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

希望への道

2017年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ますか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

一心に納めて、思い巡らす

2017年度 第4回 女子青年黙想会

日時： 2018年 2月17日 (土) 15:00 ～

18日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2018年2月11日 (日) まで

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

●キリスト教入門講座(右頁参照)

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座(右頁参照)

毎月第1・第3・第5火曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度冬学期: 理性と神認識—中世—

- 1/ 6 マイスター・エックハルト:
魂の火花と神との合一(14世紀)
- 1/13 ゾイゼ、タウラー:
神秘家の説教(14世紀)
- 1/20 ルースブルーク: 内なる生命(14世紀)
- 1/27 イギリスの神秘思想:
愛の経験(14世紀)
- 2/ 3 中世後期女性神秘家(15世紀)

●神学読書会

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。
祝日は休み。

・ミサ:上記読書会後20時～20時45分 クルトウルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
祝日は休み。

・「黙想会」

3月17日(土)～18日(日)(上石神井)
1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内
S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。

1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り

(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日:18時00分～20時00分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。
(祝日は休み)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ
(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
1月27日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座

日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

2018年

- 1/ 5 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
- 1/12 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
- 1/19 霊の動き— 福音による生き方
- 1/26 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰
- 2/ 2 神の言葉
— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/ 9 結婚と独身— 愛の道
- 2/16 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 2/23 仕事という人間の課題
— 社会と教会に寄与して働く
- 3/ 2 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 3/ 9 死— その受け入れと克服
- 3/16 人生の完成— 神の内に生きる
- 3/17-18 ●黙想会(上石神井)
- 3/23 聖母マリア— 信じる者の原型

- 3/30 ○休み
- 4/ 1 ◆御復活祭のミサ(14時、上智大学内
クルトウルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座

日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

2018年

- [日常生活]
- 1/16 家庭と独身生活
— 与えられた招きの発見
- 2/ 6 仕事と祝い
— 能力の活性化と人生の実り
- 2/20 困難と苦しみ
— 謙遜な自己奉獻と神への信賴
- 3/ 6 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘
- 3/20 秘跡の恵み
— たえざる刷新と神のいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03-3263-4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通)
-5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2018年予定】

1月18日 第13の歌
3月22日 第14及び15の歌（1～14）
5月24日 第14及び15の歌（15～30）
7月26日 第16の歌
9月27日 第17の歌
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～18）

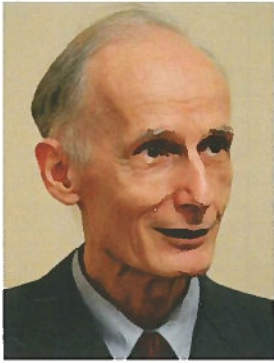
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-33318
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

昨年、一昨年の秋に列聖されたディジョンのカルメリット、三位一体のエリザベト（1880-1906）の靈性を、毎年上野毛教会で行なわれる「四旬節講話シリーズ」の共通テーマとして、また「名古屋一日静修」の年間テーマとして取り上げた。年頭にあたり、聖女のすばらしい言葉をご紹介します。

「あなたの心の中で主を崇めなさい」（1ペト 3・15）そのためには、洗者聖ヨハネのもう一つの言葉を実現しなければなりません。「主は栄え、私は姿を消さなければならない」（ヨハ 3・30）。私たちが聖化され、さらに主と一致するために主が来られるこの新しい年に、心の中で主が栄えられますように。そして他の被造物から離れて全く独り主にとどまり、主が真に王となられますように。私たちは消え去り、自分を忘れ、使徒の美しい表現によれば、「栄光の賛美」とのみなるように努めましょう。

今年一年が、主の恵みに満ちた御年となりますように。

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

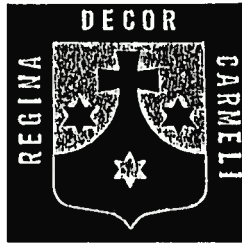
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

2月号の製本/発送日 **1月26日(金) 午前9時半頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456